

2019年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期見通し

2018年8月7日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第1四半期実績

- 連結：売上高は5%増収。損益は証券訴訟の和解金計上等により損失を計上
- 医療：増収増益。営業利益は2桁増益を達成
- 機関投資家との証券訴訟で和解が成立し、経営課題の一つが解決

通期業績見通し

- 証券訴訟の和解に伴う引当金等を計上し、各段階利益を修正

2019年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

2019年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

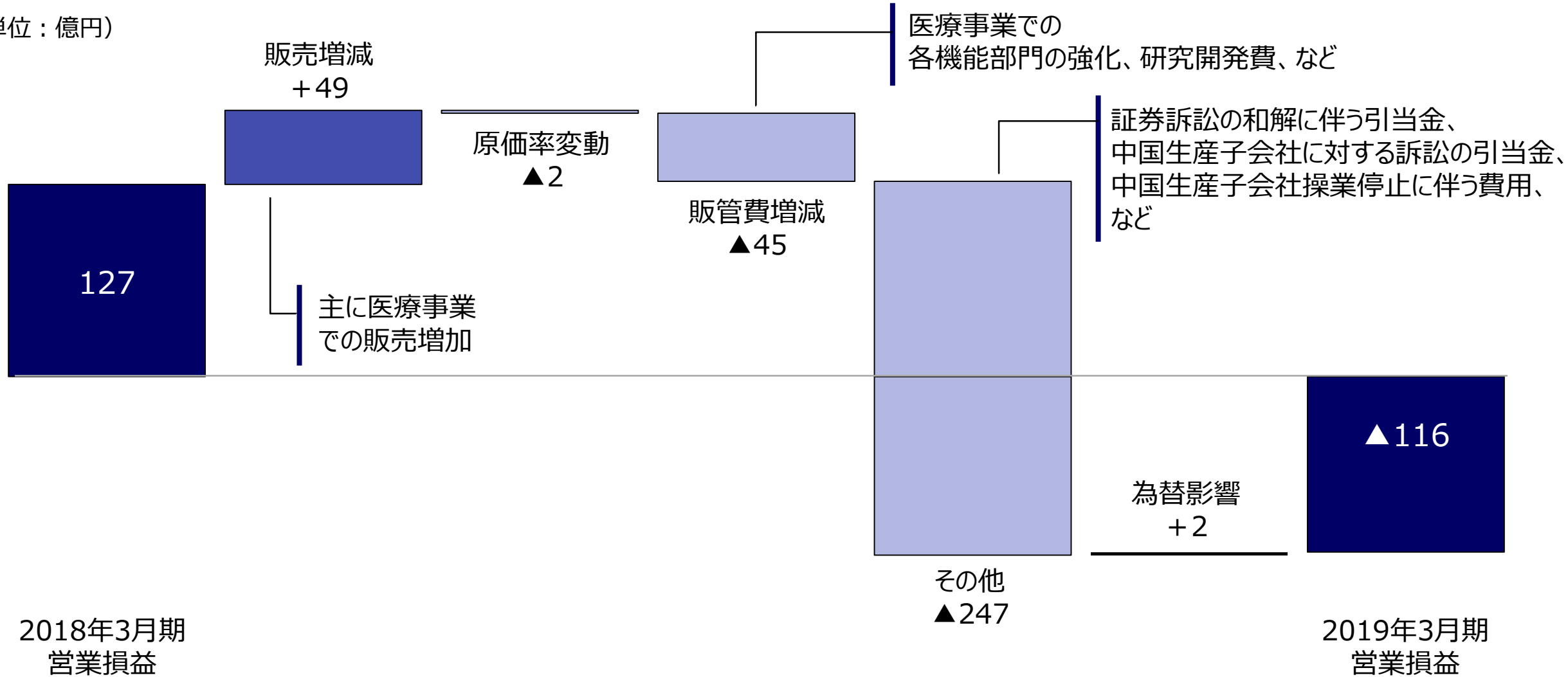
- ① 主力の医療事業が牽引し、売上高は5%増収を達成
- ② 証券訴訟の和解に伴う引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金等の計上により損失を計上

(単位：億円)	2018年3月期	1Q実績 (4-6月)		前年同期比	為替影響 調整後
		2019年3月期			
売上高	1,718	1 1,806		+5%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	1,129 (65.7%)	1,183 (65.6%)		+5%	+4%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	995 (57.9%)	1,050 (58.2%)		+6%	+5%
その他の収益および費用等	▲7	▲250		-	-
営業損益 (営業利益率)	127 (7.4%)	2 ▲116 (-)		-	-
税引前損益 (税引前利益率)	119 (6.9%)	▲147 (-)		-	-
親会社の所有者に帰属する当期損益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	101 (5.9%)	▲167 (-)		-	-
円/USドル	111円	109円			
円/Euro	122円	130円			

2019年3月期 第1四半期実績 ①連結営業損益増減要因

第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)



2019年3月期 第1四半期実績 ②セグメント別概況

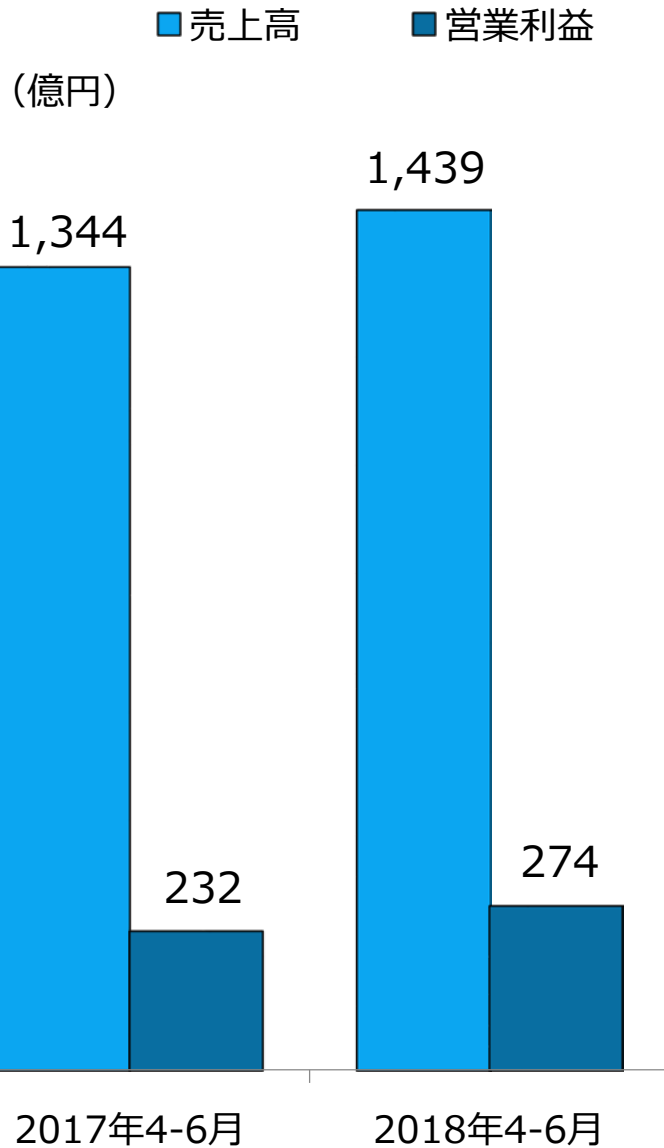
① 医療：全分野プラス成長を確保し、増収増益

② 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用計上等により、営業損失を計上

1Q実績 (4-6月)

(単位：億円)		2018年3月期	2019年3月期	前年同期比	為替影響 調整後
医療	売上高	1,344	1,439	+7%	+6%
	営業利益	232	274	+18%	+19%
科学	売上高	200	211	+6%	+5%
	営業利益	▲6	▲4	+2億円	+3億円
映像	売上高	151	139	▲8%	▲10%
	営業利益	9	▲58	▲67億円	▲71億円
その他	売上高	23	17	▲28%	▲28%
	営業利益	▲5	▲7	▲2億円	▲2億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲103	▲322	▲219	▲219
連結合計	売上高	1,718	1,806	+5%	+4%
	営業利益	127	▲116	▲243億円	▲245億円

2019年3月期 第1四半期実績 ③医療事業



第1四半期実績 (4-6月)

(単位：億円)

	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,344	1,439	+7%	+6%
内視鏡	728	763	+5%	+4%
外科	428	474	+11%	+10%
処置具	188	202	+8%	+6%
営業利益	232	274	+18%	+19%
営業利益率	17.3%	19.0%		19.4%

売上高

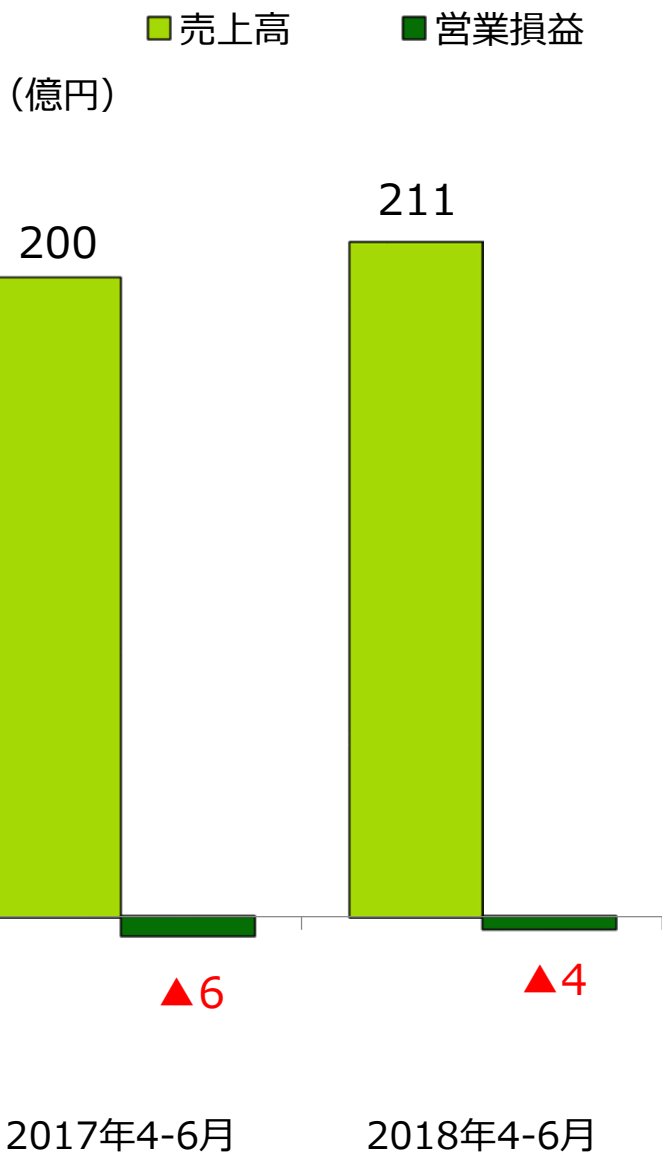
営業利益

- ✓ 内視鏡：先進国は販売施策等により売上を確保し、新興国は成長が継続
- ✓ 外科：外科内視鏡の販売が全地域で堅調
- ✓ 処置具：新興国やラインナップを拡充した北米を中心に堅調に推移
- ✓ 全分野の増収に伴い、18%増益

2019年3月期 第1四半期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率			分野別の状況
		FY2018		FY2019	
		1Q	通期	1Q	
消化器 内視鏡	日本	▲6%	▲2%	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> 日本：前期導入した新スコープの販売は好調である一方、低調な予算執行の影響を受け、前年並みの成長 欧米：セールスプロモーションや保守を含めた販売が堅調に推移 アジア・オセアニア：中国が好調を維持
	北米	▲1%	+1%	+4%	
	欧州	▲6%	▲1%	+3%	
	豪亜	+13%	+10%	+8%	
	全地域	0%	+2%	+4%	
外科	日本	+3%	+9%	+11%	<ul style="list-style-type: none"> 日欧：「VISERA ELITE II」の拡販および、好調なエネルギーデバイスが売上に寄与 北米：主力製品がライフサイクル後半であるものの、スコープの販売やISM社との連携効果による売上が堅調
	北米	▲1%	+2%	+7%	
	欧州	+6%	+6%	+9%	
	豪亜	+18%	+10%	+13%	
	全地域	+4%	+6%	+10%	
処置具	日本	+8%	+7%	+2%	<ul style="list-style-type: none"> 全地域でプラス成長を確保 特にアジア・オセアニア、市場ニーズに沿った新製品を積極的に導入している北米が好調
	北米	+5%	+4%	+10%	
	欧州	▲1%	+3%	+4%	
	豪亜	+23%	+16%	+9%	
	全地域	+7%	+7%	+6%	

2019年3月期 第1四半期実績 ④科学事業



第1四半期実績 (4-6月)

(単位：億円)

	FY2018	FY2019	前年同期比	為替影響調整後
売上高	200	211	+6%	+5%
営業損益	▲6	▲4	+2億円	+3億円
営業利益率	-	-		-

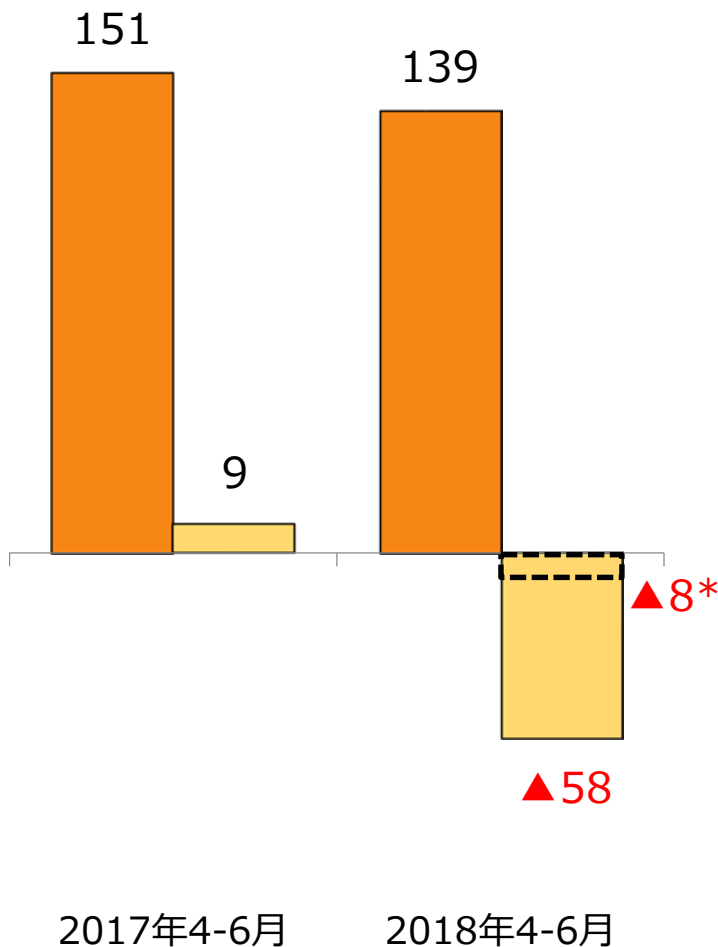
売上高

営業損益

- ✓ 生物顕微鏡、産業製品ともに堅調に推移し、6%増収
 - ・日本：予算執行が順調に進み、生物顕微鏡の売上が堅調
 - ・北米：工業用顕微鏡、X線分析計の販売が堅調
 - ・欧州：発電市場等の好調な市況を背景に非破壊検査機器が売上を牽引
 - ・中国：生物顕微鏡、産業製品いずれも高い売上成長
- ✓ 増収により、営業損益が改善

2019年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業

■ 売上高 ■ 営業損益
(億円)



第1四半期実績 (4-6月)

(単位：億円)	FY2018	FY2019	前年比	為替影響調整後
売上高	151	139	▲8%	▲10%
ミラーレス	116	103	▲11%	▲13%
コンパクト	23	20	▲12%	▲13%
その他	12	15	+27%	+26%
営業損益	9	▲58	▲67億円	▲71億円
営業利益率	5.9%	-		-
営業損益 (参考) *	9	▲8	▲17億円	▲21億円

*中国生産子会社操業停止に伴う費用を除いた数字

売上高

- ✓ 競争環境の激化および、生産拠点の再編に伴い製品の供給に制約が生じた影響もあり、ミラーレス一眼の販売が減少し、8%減収

営業損益

- ✓ 生産構造改革費用（中国生産子会社操業停止に伴う費用）を50億円計上したこと等により、営業損失を計上

財政状態計算書

- 当期損失*167億円の計上、剰余金の配当により資本が減少し、自己資本比率は42.8%

(単位：億円)	2018年 3月末	2018年 6月末	増減額
流動資産	5,143	5,068	▲75
棚卸資産	1,393	1,464	+71
非流動資産	4,644	4,752	+108
有形固定資産	1,682	1,712	+30
無形資産	734	768	+34
のれん	972	1,007	+35
資産 合計	9,787	9,820	+33

	2018年 3月末	2018年 6月末	増減額
流動負債	3,059	3,557	+498
社債及び借入金	888	1,172	+284
非流動負債	2,285	2,051	▲233
社債及び借入金	1,592	1,330	▲262
資本	4,443	4,211	▲231
自己資本比率	45.2%	42.8%	▲2.4pt
負債及び資本 合計	9,787	9,820	+33

有利子負債：2,502億円（2018年3月末比+22億円）

連結キャッシュフロー計算書

- FCF：有形固定資産の取得および、Cybersonics社の事業取得に伴う支出があった一方、事業活動から創出される利益を中心に、前年同期比83億円増の77億円を確保

第1四半期実績

(単位：億円)	2018年3月期	2019年3月期	増減
売上高	1,718	1,806	+87
営業損益	127	▲116	▲243
営業利益率	7.4%	-	-
営業キャッシュフロー	201	250	+49
投資キャッシュフロー	▲208	▲174	+34
フリーキャッシュフロー	▲7	77	+83
財務キャッシュフロー	▲101	▲91	+10
現金及び現金同等物期末残高	1,901	1,899	▲2
減価償却費	125	143	+18
設備投資額	158	162	+4

2019年3月期 通期業績見通し

通期見通し ①連結業績

- 証券訴訟の和解に伴う引当金、中国生産子会社に対する訴訟の引当金を計上し、各段階利益を下方修正
- 上記費用計上を除き、前回公表数値を据え置き

(単位：億円)	2019年3月期 5月11日公表見通し	2019年3月期 (最新見通し)	増減	前回見通し比	2018年3月期
売上高	8,000	8,000	0	0%	7,865
売上総利益 (売上総利益率)	5,270 (65.9%)	5,270 (65.9%)	0	0%	5,105 (64.9%)
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,380 (54.8%)	4,380 (54.8%)	0	0%	4,266 (54.2%)
その他の収益および費用等	▲80	▲310	-	-	▲29
営業利益 (営業利益率)	810 (10.1%)	580 (7.3%)	▲230	▲28%	810 (10.3%)
税引前利益 (税引前利益率)	760 (9.5%)	530 (6.6%)	▲230	▲30%	767 (9.7%)
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	590 (7.4%)	400 (5.0%)	▲190	▲32%	571 (7.3%)
EPS	173円	117円			
円/USD	105円	106円	+1円(円安)		
円/Euro	130円	130円	-		

2019年3月期配当
年間配当30円を予定
(変更なし)

通期見通し ②セグメント別業績

- 各事業セグメントの売上高、営業利益は5月に公表した数字から変更なし
- 全社・消去に証券訴訟の和解に伴う引当金等を織り込み、連結営業利益は下方修正

(単位：億円)		2019年3月期 5月11日公表見通し	2019年3月期 最新見通し	増減額	前回見通し比
医療	売上高	6,340	6,340	-	-
	営業利益	1,350	1,350	-	-
科学	売上高	1,000	1,000	-	-
	営業利益	70	70	-	-
映像	売上高	600	600	-	-
	営業利益	▲70	▲70	-	-
その他	売上高	60	60	-	-
	営業利益	▲60	▲60	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲480	▲710	▲230	▲230
合計	売上高	8,000	8,000	-	-
	営業利益	810	580	▲230	▲28%

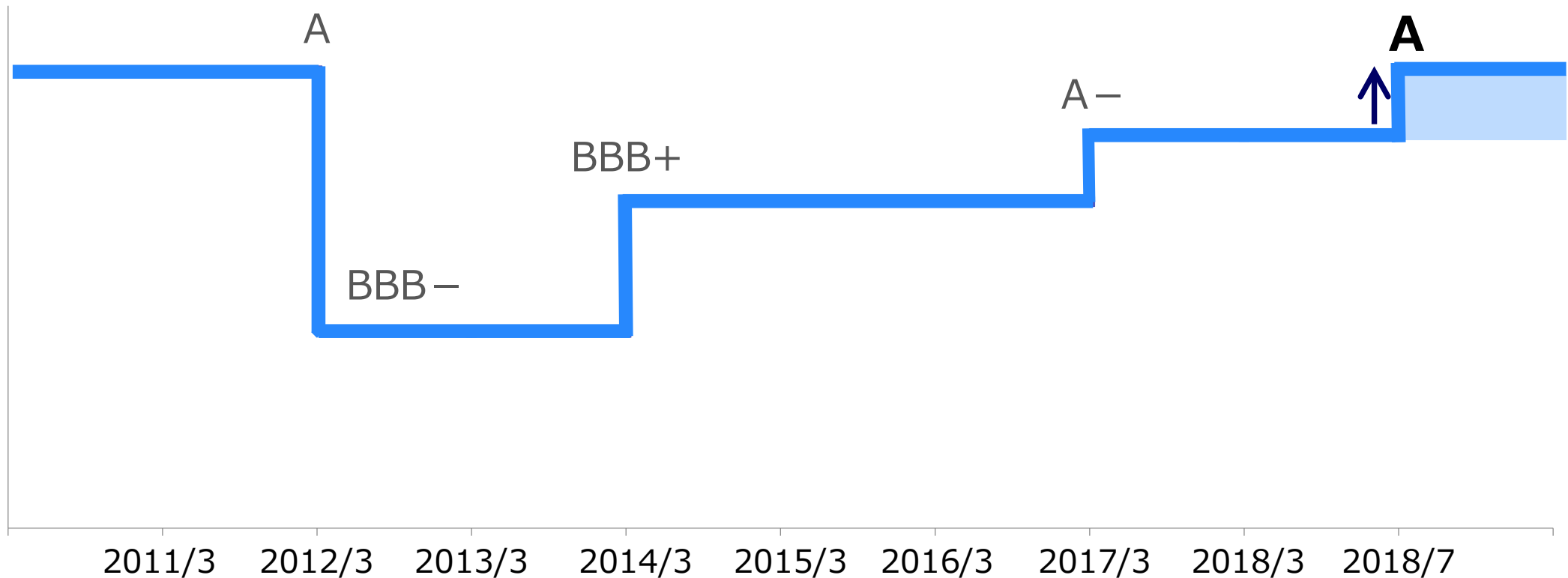
第1四半期 トピックス

トピックス 格付引き上げ

格付投資情報センター（R&I）が当社の発行体格付を「A-」→「A」に引き上げ（7月23日）

■ 格付評価のポイント（R&Iニュースリリースより）

- 世界シェア7割の消化器内視鏡を中心に主力事業の競争力が安定している
- 利益の蓄積と債務の圧縮で、財務バランスは継続的に改善している
- コーポレートガバナンス、医療事業の品質・法規制対応の実効性について、経営の安定性は以前より増している



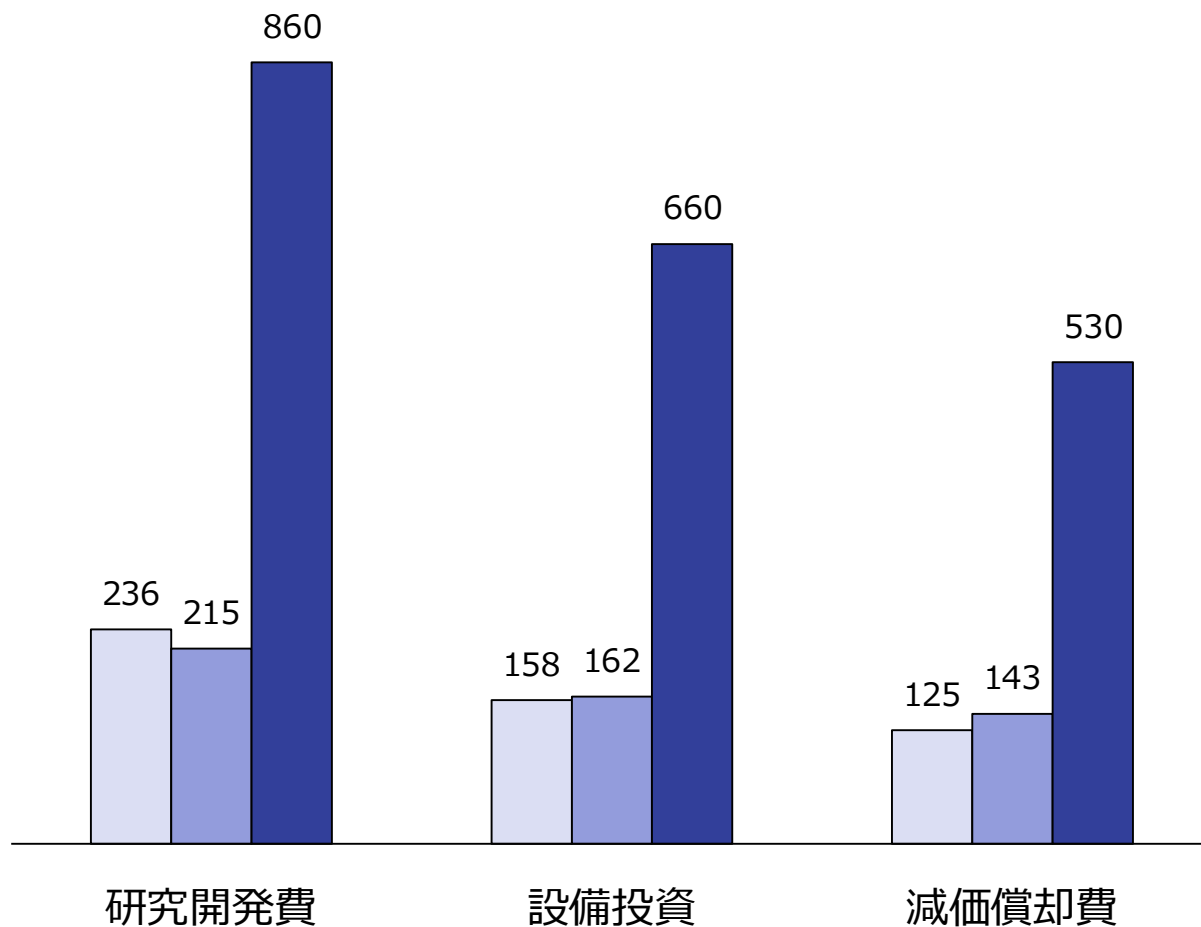
OLYMPUS

Appendix

【参考資料】投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

1Q実績および通期見通し

(億円) □ 2018年3月期1Q ■ 2019年3月期1Q ■ 2019年3月期(通期見通し)



研究開発費詳細

(単位：億円)

	FY2018(*1)		FY2019	
	1Q	1Q	1Q	通期見通し
研究開発費 (対売上高比率)	236 (13.7%)	215 (11.9%)	860 (10.8%)	

ご参考

(単位：億円)

	FY2018		FY2019	
	1Q	1Q	1Q	通期見通し
開発費資産化(*2)	32	24	120	
償却費	15	17		

2018年3月末 2018年6月末

開発資産残高	325	332
--------	-----	-----

- (*1) 全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース
- (*2) 開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれています